

Food-dependent exercise-induced anaphylaxis among junior high school students;

A 14-year epidemiological comparison

出典 Allergology International 2015 Jul;64(3):285-286
(<http://www.ncbi.nlm.nih.gov/pubmed/26117264>)

著者 Manabe T 他

調査地域 神奈川県横浜市

調査時期 2012 年

調査対象 中学生 (12~15 歳)

依頼数 148 人

回収率 95.2%

有効回答率 95.2%

診断方法 教員の申告

有症率 0.02%

調査概要 横浜市立中学校の養護教諭を対象に食物依存性運動誘発アナフィラキシーの有症率を調査した論文。有症率は14年前と同程度で、男女差はなかった。養護教諭の認知度は上昇していた。原因食物は小麦、甲殻類が多かった。